The Magic Hour

同名の映画作品のシチュエーションをモチーフにしたシナリオ。偶然の引き起こした勘違いにより、最強の殺し屋を“演じる”ことになったカブキの運命やいかに。

（掲載日：2017.8.5）

プレアクト情報

PRE-ACT INFO

■シナリオ基本情報

▼作者

nogi（twitter：@nogi2541）

▼プレイヤー人数

３～４人

▼想定プレイ時間

３～４時間程度

▼シナリオタグ

チームもの、コメディ、ヒロイック

●このシナリオについて

本作はカブキを主役とした、一風変わった導入のシナリオだ。プレアクト情報で提示されている面白おかしいシチュエーションを、ぜひ生き生きと演じ、楽しんで欲しい。

●シナリオレギュレーション

本シナリオの想定レギュレーションを以下に記載する。

▼使用経験点

０～100点程度

▼達成値制限

なし（敵の最大達成値22）

▼スタイル制限

『②カタナ』の設定についての注釈参照

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。これはアクトのイメージを膨らませるのに役立つ。

最強の殺し屋、ブラッディローズに依頼が入る。
ヒルコ牧場の経営者を殺してくれ、と。
その依頼をサポートするのは、その道のプロフェッショナル達。
完璧な作戦。失敗するはずのない任務。

――そのはずだった。
依頼人がブラッディローズのアドレスを間違えていなければ。

トーキョーN◎VA THE AXLERATION
『The Magic Hour』

かくて、運命の舞台は幕を開けた。

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●クイックスタート

本シナリオでは、以下のサンプルキャストを使用することを推奨する。

『①カブキ』：地上の天使（『BTD』p59）
『②カタナ』：現代の騎士（『TNX』p91）
『③ニューロ』：ドローンマスター（『TOS』p55）
『④カブト』：ボディガード（『BTD』p57）

●『①カブキ』の設定について

本シナリオは一般人が裏社会の通例を映画の設定だと勘違いしたままクライマックス直前まで突き進むことが想定されている。そのため『①カブキ』は裏社会を知らない一般人であることが好ましい。

しかし、一般人とは言えどキャストであるということに留意しなければならない。

●必要な神業

キャストが敵の神業のみでリタイアするのを防ぐためには、キャスト全員で最低２個の防御系神業が必要だ。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する技能は〈社会:ストリート〉などである。

なお、シナリオ中に〈芸術：任意〉〈電脳〉を主とした一般技能判定が要求される場合がある。

■キャスト間コネクション

以下の順番で取得すること。

『①カブキ』→『②カタナ』→『③ニューロ』→『④カブト』→『①カブキ』

アクトハンドアウト

各キャストには右記の設定が推奨・あるいは追加される。
キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

各キャストには、以下の設定が推奨・追加される。
『①カブキ』：俳優など、映画に出演し得る者
『②カタナ』：荒事稼業のプロフェッショナル
※カタナに限らず戦闘が行える者を想定
『③ニューロ』：名の知れたニューロ
『④カブト』：腕の立つボディガード

①推奨スタイル：カブキ

SCENARIO HANDOUT

コネ：カッパーヴェイン　推奨スート：理性

カッパーヴェインはキミの俳優業のマネジメントを行うバディだ。
その彼がキミに、仕事を持ってきた。どうやら映画に出演するらしい。
そしてキミが演じる役は最強の殺し屋、ブラッディローズ。
面白そうな役じゃないか。キミはその仕事を快諾するのであった。

【ＰＳ：スターになる】

②推奨スタイル：カタナ

SCENARIO HANDOUT

コネ：“偽金王”ヴィンセント　推奨スート：外界

キミは三合会幹部“偽金王”ヴィンセント張から依頼をされた。なんでも、ヒルコ牧場の経営者を殺害してほしいとのこと。

しかも共に仕事をするのは、ストリートじゃその名を知らぬ者はいないあの殺し屋、ブラッディローズであるらしい。キミはもちろん、その依頼をうけることにした。

【ＰＳ：ヒルコ牧場を潰す】

③推奨スタイル：ニューロ

SCENARIO HANDOUT

コネ：“偽金王”ヴィンセント　推奨スート：外界

キミは三合会幹部“偽金王”ヴィンセント張から依頼をされた。それは悪名高きヒルコ牧場を壊滅させるためのサポートである。

しかもこの作戦には、最強と謳われながらもその正体を知る者はいないあの殺し屋、ブラッディローズが参加しているらしい。今回のビズはきっとすぐに終わるだろう。

【ＰＳ：ヒルコ達を解放する】

④推奨スタイル：カブト

SCENARIO HANDOUT

コネ：“偽金王”ヴィンセント　推奨スート：外界

キミは三合会幹部“偽金王”ヴィンセント張から依頼をされた。ヒルコ牧場攻略に集められたプロフェッショナル達。彼らの護衛である。

だがその護衛対象には、依頼成功率 120%とまで言われたあの殺し屋、ブラッディローズの名前が。とは言えど依頼は依頼。必要かはさておき仕事はしなければ。

【ＰＳ：このチームを守る】

RL用テキスト

TXT 4 RULER

■ストーリー

ブラッディローズとはマーダーインクが追っている組織の裏切り者をあぶり出すために作られた都市伝説のヒットマンであり、その噂の流布には“噬う死神”キース・シュナイダーと“お嬢”モードレッド・カーライルが行っていた。加えてその両名は万が一に備えて義体を遠隔操作しており、死亡することはないものの本来の実力が出せない状態である。

だが、そんな都市伝説を信じたのは全く関係のない三合会幹部“偽金王”ヴィンセント張であり、彼が手に入れたアドレスが偶然にも『①カブキ』のマネージャー、カッパーヴェインに繋がってしまい、更にはカッパーヴェインが映画の依頼だと勘違いしたのが全ての始まりである。

映画の撮影だと勘違いしている『①カブキ』と本物のブラッディローズだと勘違いして支えるプロフェッショナル達。しかし、これが映画の撮影ではないということに気づいたカッパーヴェインからの連絡で『①カブキ』は現実へと引き戻される。そしてそれはヒルコ牧場で起こっている悲劇ですらも現実ということでもある。

フィルムの中のヒーローが現実世界のヒーローとなり、無事ヒルコ牧場を壊滅させることができればアクトは終了となる

■クライマックスへの条件

「●イベント:暮色に染まるキネマトグラフ」の後、生物工場のアドレスへ向かえばクライマックス。

オープニングフェイズ

OPENING PHASE

●オープニング1:真夜中のプリプロダクション

シーンプレイヤー:RLシーン

登場:不可

◆解説

カッパーヴェインがヴィンセント張から依頼をうける。カッパーヴェインはそれを映画の依頼だと勘違いする。

◆描写

その日、カッパーヴェインの元に連絡が入った。見たこともないアドレス。首を傾げながらもその電話に出てみると、その相手は一言、依頼がある、とだけ言った。

「依頼?……あぁ! 映画の依頼かしら?」

弾んだ声で応えるカッパーヴェインに、その相手は含み笑いで返す。

「そうだな。悪名高きヒルコ牧場の経営者を殺害し捕らわれているヒルコ達を解放する。そんなアクション映画さ」

「あら素敵。それで、どういう役を演じるのかしら?」

「最強にして最悪。正体不明でありながら、ストリートじゃその名を知らぬ者はいない伝説の殺し屋ブラッディローズ。それがお前の演じるべき役だ」

「大層な肩書ね。その依頼、もちろん請けるわ。彼もきっと喜ぶ」

「彼……? あぁ、なるほど。では、キミ達の働きを期待しているよ、バッドエンドラフ」

そして通話は途切れた。

◆結末

カッパーヴェインが満面の笑みで『①カブキ』の元へと走っていき、シーンエンド。

●オープニング2:夜明けのオスカー

シーンプレイヤー:『①カブキ』

登場:不可

◆解説

カッパーヴェインから映画の出演依頼があったことを聞かされるシーン。

◆描写

大して代り映えのしない日常。そんなキミの元にいつも以上の騒がしさでカッパーヴェインがやってきた。

▼セリフ:カッパーヴェイン

「大変よ『①カブキ』ちゃん!重大ニュースよ大事件よ!」

「映画の出演依頼があったの!『①カブキ』ちゃん映画に出れるのよ映画!しかも役は最強の殺し屋ブラッディローズですって!これ主役よ主役!」

「詳しいことはここに向かえば教えてくれるって!ただ、フィルムは止まることなく回り続けるから気を抜

くな、とかも言ってたわ！」
（３シルバーを渡して）「はいこれ、ちょっとしかないけど必要なものがあったらこれで用意してね。足りなかったらまた連絡して。あー、もちろん返さなくていいわよ。余ったら美味しいものでも食べて頑張って頂戴ね！」

◆結末

待ち合わせ場所へ向かったら３報酬点を渡してシーンエンド。

●オープニング3:グリーンバック・ブルーアワー(*1)

シーンプレイヤー：『②カタナ』
登場：不可

◆解説

ヴィンセント張からヒルコ牧場壊滅の依頼を請ける。

◆描写

キミの元に連絡が入る。相手は三合会幹部、ヴィンセント張だ。

▼セリフ：ヴィンセント張

「依頼がある。君も聞いたことがあるかもしれないが、ストリートで人間狩りをしているヒルコ牧場の件だ」
「そこの経営者を殺し、ヒルコ牧場を壊滅させてくれ。私のビズにとって邪魔なのでね」
「捕らわれているであろうヒルコ達に関しては興味がない。殺すなり放っておくなり好きにするといい」
「そうそう、この依頼は複数人でうけてもらうのだが、聞いて驚くなよ？共に参加するのは、夜叉の再来とまで言われた伝説の殺し屋ブラッディローズだ」
「正体不明の代名詞とも言える凄腕の殺し屋だ。どのような見た目であろうと絶対に気を抜くなよ？能ある鷹は爪を隠すものだからな」
（依頼を請けた）「では、この場所に集まってくれ。詳しくはそこで話そう」

◆結末

待ち合わせ場所に向かったら３報酬点を渡してシーンエンド。

●オープニング6：トワイライト・カッティング

シーンプレイヤー：『①カブキ』
登場：不可

◆解説

待ち合わせ場所であるバー・ヤロールの奥、イシュタル海の個室へと向かうシーン。

◆描写

バー・ヤロール。本物のスラムと見紛うばかりのセットの先にその店はあった。
中に入ると、本当に薬で頭がおかしくなっているような演技をする者や何人殺していてもおかしくないほど迫力のあるエキストラ達が思い思いに踊っている。
そんな光景を眺めているとカウンターの奥から声を掛けられた。
「ＸＹＺ。待っていたよ。ブラッディローズ」
その瞬間、その場の空気が凍り付く。

▼セリフ：ドーリス

「あの扉の向こうに来てくれ、と彼から言伝を頼まれていてね」
「注文があるならどうぞ。商談前に一杯傾ける者も少なくない」

◆結末

『①カブキ』がイシュタル海へ向かったらシーンエンド。

(*1) オープニング3
この後に続く『③ニューロ』のオープニング４も『④カブト』のオープニング５も内容はオープニング３と同様である。
ブラッディローズがいかに凄い存在なのかを語ると盛り上がるだろう。

No Image

▼設定
「さぁ張り切っていきなさい！あなたがスターになるまで、あたしも頑張るわよ！」
『①カブキ』のマネージャー。30代前半のオネェ。『①カブキ』の最も身近なファン。

カッパーヴェイン
エグゼグ◎、ミストレス●、トーキー

No Image

▼設定
「あの目……間違いない。あの者こそが最強の殺し屋、ブラッディローズ……！！」
三合会の幹部。ブラッディローズのことを高く評価しており、この依頼を必ずや成功させるだろうと信じている。

“偽金王”ヴィンセント張
タタラ◎、レッガー＝レッガー●

リサーチフェイズ

RESEARCH PHASE

●イベント1：クランクイン・ザ・サンライズ

条件：リサーチフェイズ開始時
シーンプレイヤー：『②カタナ』
登場：全員登場

◆解説

イシュタル海の個室で全キャストが合流する(*2)。その後ヴィンセント張が登場し改めて依頼の確認を行う。

◆描写 1

ヴィンセント張が合流場所に指定したのは“海”とだけ書かれた扉、その向こうにある。

そこに集まる者たちは皆、今か今かと待っているのだ。最強の殺し屋、ブラッディローズその人を。

※全員が登場したら「◆描写2」へ移る。

◆描写 2

皆の顔合わせが済んだとき、キミ達の目の前にノイズ交じりの男の姿が映し出される。

彼こそがキミ達に依頼した張本人、“偽金王”ヴィンセント張だ。

▼セリフ：ヴィンセント張

「諸君、よくぞ集まってくれた。これから共にこの任務にあたる者の顔は覚えたかな？」
「目的は伝えた通りヒルコ牧場の破壊と経営者の殺害。その際に捕らわれていると予想されるヒルコ達の生死は問わない」
「裏を返せば殺すも自由。救うも自由ということだ。各々の理念に従うといいだろう」
「ヒルコ牧場のアドレスは巧妙に隠されている。ならばこそ、ストリートに精通した者に任せた方が早いだろう。君達みたいにね」
「他に何か質問はあるか？」
（なければ）「では今よりヒルコ牧場抹殺作戦を開始する。幸運を」

◆結末

ヴィンセント張からの通信が途切れてシーンエンド。

●イベント2：7番目のハレーション

条件：「セレーヌのアドレス」に連絡する
シーンプレイヤー：『③ニューロ』
登場：〈電脳〉／SR：レッド

◆解説

ロッソ・ファミリーに連れ去られたセレーヌと連絡を取る。彼女はヒルコ牧場の内部を知っているらしいが、彼女自身は既に別の場所へ移されたようだ。

◆描写

セレーヌのアドレスに通信を試みたキミ達。ノイズが走る中、それに紛れて少女の声が聞こえてきた。

▼セリフ：セレーヌ

「だれ……？」
「突然知らない人に捕まって……工場みたいなところに連れてこられたの」
「しばらくしたらまた別のところに連れてかれて……。お願い、私を助けて！」
「あの人たち、ここのことを『Ａ種実験場』って呼んでた。あまり人はいないみたいだけど……」
「早く来て……。早く逃げなきゃきっとひどいことされる……」

◆結末

【Ａ種実験場】の情報項目が調査可能となりシーンエンド。

●イベント3：ブルーローズは起こり得ない

条件：【カルコ・ロッソ】の情報が全て公開される
シーンプレイヤー：ＲＬシーン
登場：不可

◆解説

カルコ・ロッソが何者かに殺害される。

◆描写 1

どこかの生体工場。不自然なほど豪奢な所長室で、現所長カルコ・ロッソは下品な笑みを浮かべながら札束を数えていた。

▼セリフ：カルコ・ロッソ

「ひぃ、ふぅ、みぃ……アハハハハ！！ったく、ヒルコなんて化け物を飼いたがるクソッタレな変態共には感謝だなぁ！！」
「これだけの金があればクソむかつくカーライルともおさらばできるぜぇ！」
「それしたって親父も親父だよなぁ！？最初からこうしちまえば金なんて簡単に手に入るってのによぉ！！」
「まぁ、毎日連中のうるせぇ泣き声を聞かなきゃならんのはちぃっとばかし気が滅入るが……働くのは俺じゃないし関係ないよなぁ！？ハハハハハ！！」
「……それにしても今日はやけに静かだな」

◆描写 2

カルコがちょっとした違和感を感じたそのときだった。コンコン、と誰かが扉を叩く。
「ぁあ？入れ」
苛立ちながら応えるカルコ。しかしそこから現れた人物を見て、彼は思わず目を剥いた。

(*2) 全キャストが合流する
どう合流するか、どの順番で部屋に来るかなどは特に決まっていない。プレイヤー達と相談すると良いだろう。

「お……お前は、いや、貴女様が何故……！！」
「さぁ、踊ろうか。カルコ・ロッソ」
　開かれた扉は音もなく閉まる。そして、何も。

◆結末

　エキストラは舞台から退場した。シーンエンド。

●イベント４：スパティフィラムの死神

条件：【バッドエンドラフ】の情報が全て公開される
シーンプレイヤー：ＲＬシーン
登場：不可

◆解説

　本物のブラッディローズとバッドエンドラフが事態に気付く。

◆描写

　木更タタラ街のはずれにあるスシ･バー“ギンシャリ”。そこには二人の人物がカウンターに座っている。
　一人は胡散臭い日本語を話す陽気な北米人。もう一人は赤いドレスに身を包んだ少女。スシを食べる動作から、その二人が凄腕の殺し屋であることにスシ職人は気付いた。
　そんなことを知ってか知らずでか、陽気な北米人はスシを食べながら話し始めた。
「まさかカーライルの裏切り者をあぶり出すためにでっち上げた架空の殺し屋ブラッディローズの偽物が現れるだなんて、ワタシビックリデース！！」
　少女もスキヤキもののイクラを食べながら相槌を打つ。
「ほんとだよね。架空とはいえ、せっかくボクが情報の裏付けとして協力したのにさぁ。めんどくさいなぁ」
「いっそこのブラッディローズの名前もバッドエンドラフの名前も捨てて一からやり直した方が楽そうデース……」
　炙りサーモンを食べていた北米人はふと、雰囲気が変わったことに気付いた。隣を見れば相方の少女が笑みを浮かべている。
「あのさバッドエンドラフ」
「どうしたんデース？」
「見に行こうか、その偽物をさ。ついでに目障りなロッソファミリーも潰しがてらに！」
　北米人のついた溜め息は同意の意。少女は満面の笑みでマグロのハラモを二貫食べた。

◆結末

　スシを堪能した彼らは寄り道ついでにロッソファミリーを潰しに向かう。シーンエンド。

●イベント５：エンプティシアター

条件：［Ａ種実験場のアドレス］に向かう
シーンプレイヤー：『②カタナ』
登場：全員登場

◆解説

　捕らわれているセレーヌを救出するためにＡ種実験場を攻略する。

◆描写１

　Ａ種実験場の前にやってきたキミ達。しかし情報通り門扉は固く閉ざされている。
・〈電脳〉の判定が成立すれば門は開く。失敗した場合は神業相当の精神ダメージ（21：魂魄消滅）を受けて次に進む。

◆描写２

　Ａ種実験場へと侵入したキミ達。侵入者を検知した大量の武装ドローンが襲い掛かってきた！
・〈白兵〉か〈射撃〉の判定が成立すれば先に進める。失敗した場合は神業相当の肉体ダメージ（21：頭部損傷）を受けて次に進む。

◆描写３

　もうすぐセレーヌの待つ部屋の扉にたどり着く。だがその行く手を恐るべき連帯保証人登録器が遮った！
・〈信用〉の判定が成立すれば先に進める。失敗した場合は神業相当の社会ダメージ（21：guilty- 有罪）を受けて次に進む。

◆描写４

　最後の扉の前にやってきた。そこにあったのは不可解な暗号文とパスワード入力画面。これはブラッディローズにしか分からないだろう！
・暗号文は「ブタラッティ・タロータタズ」。これを元に正しいパスワードを入力できればこのイベントはクリアとなる。間違えた場合は神業相当の肉体・精神・社会ダメージ（全て 21 番）をそれぞれ受けてクリアとなる。

◆結末

　セレーヌを閉じ込めていた最後の扉が開かれてシーンエンド。そのまま「●イベント６：暮色に染まるキネマトグラフ」へ。

●イベント6：暮色に染まるキネマトグラフ

条件：「●イベント5：エンプティシアター」発生直後
シーンプレイヤー：『①カブキ』
登場：全員登場

◆解説

『①カブキ』にカッパーヴェインから通信が入り、映画ではなかったと知らされる。

◆描写1

最後の扉を開いた先、捕らわれていたセレーヌはキミ達の姿を認めると笑顔で駆け寄ってくる。

▼セリフ：セレーヌ

「助けてくれてありがとうございます！」
「でも、何かヒルコ牧場の様子がおかしいみたい……みんな苦しんでる……！」
「これがカルコ・ロッソの生物工場の場所よ」（［生物工場のアドレス］を手に入れる）
「早く助けに行かなきゃ！お願い、私を助けて！」

◆描写2

その時。『①カブキ』の元に連絡が入る。相手はキミのマネージャー、カッパーヴェインだった。

▼セリフ：カッパーヴェイン

「大変よ！大変なのよ『①カブキ』ちゃん！」
「あたし達に依頼したのは映画監督じゃなかったの！世界最大のマフィア三合会の幹部、“偽金王”ヴィンセント張だったの！」
「だからこれはゲームでもドラマでも、ましてや映画でもない……！最初からフィルムなんて回ってなかったのよ！」
「お願い……。このままじゃ本当にあなた死んじゃう……！早く逃げて！！」

◆描写3

相対する願い。映画と現実。その両端に挟まれたキミは……。

◆結末

『①カブキ』が決意を固め、［生物工場のアドレス］へ向かうとクライマックス。

■情報項目

リサーチフェイズ開始時に調べることが出来る情報項目は以下のとおり。

全員共通：『ヒルコ牧場』『“偽金王”ヴィンセント張』

◆ヒルコ牧場

〈社会：ストリート〉〈社会：テクノロジー〉

8　カーライル傘下のマフィア【ロッソ・ファミリー】が経営する生物工場。ストリートでさらわれた子供たちがここでヒルコに作り替えられている。

10　出荷されたヒルコたちは皆、人の身体に人間以外の生物的特徴を備えており、マニア相手に高額で取引されているようだ。

12　最近、【セレーヌ】という名のヒルコがこの工場に連れてこられたらしい。彼女はアンテナと同様の役割を果たす器官を持っており、電脳越しに接触できる可能性がある。

◆“偽金王”ヴィンセント張

〈社会：ストリート〉〈社会：警察〉

8　世界最大のマフィア、三合会の幹部であり七星の四位。ヒルコ牧場の存在が彼のビズに影響するらしく、多額の金を払ってでも潰せるならそれでいいと考えている。

10　ヒルコ牧場とカーライルが繋がっていることを知っている。そのため三合会と関わりが無い者に依頼をしたのだ。特に伝説の殺し屋、【ブラッディローズ】に全幅の信頼を寄せている。

◆ロッソ・ファミリー

〈社会：ストリート〉〈社会：テクノロジー〉

8　カーライル傘下のマフィア。ボスは【カルコ・ロッソ】という若い北米系の男性。

10　元々は生物兵器の開発など前線で戦うソルジャーの支援をしていたが、ボスがカルコに代わってからは一変し、造ったヒルコを売りさばくようになった。

12　有事の際にはここで製造したヒルコ達を暴走させる“仕掛け”があるらしい。それによって暴走したヒルコ達を無効化するならばセレーヌの歌で眠らせるのが手っ取り早いだろう。

◆セレーヌ

〈電脳〉〈社会：ストリート〉

10　両腕が翼になっているヒルコの少女。最近【ロッソ・ファミリー】にさらわれてヒルコ牧場にやってきた。

12　スタイルは◎ヒルコ、●マネキン、マヤカシであり、生物ならば眠りへ誘うことを得意とする。彼女ならばヒルコ牧場のアドレスを知っているだろう。

14　彼女との連絡手段を確保した。［セレーヌのアドレス］を入手する。

◆ブラッディローズ

〈社会：ストリート〉

14　伝説の殺し屋。最強にして最悪。どんな状況であろうと確実にビズを成功させ、その場には標的の血を吸った赤いバラだけが残されるという。

16　出身はおろか性別すら不明。正体不明の代名詞になりつつあるが、何者かの作為的な隠蔽工作が行われている。
18　《不可触》によって【ブラッディローズの手口】が隠蔽されている。これを破らない限りその情報を調べることはできないだろう。

◆カルコ・ロッソ

〈社会：ストリート〉〈社会：テクノロジー〉
10　ロッソ・ファミリーのボス。ヒルコ牧場の経営者。
12　彼にカリスマ性はなく、今残っている構成員に慕われているわけではない。加えてカルコ自身も荒事の心得があるわけでもないため、簡単に殺せるだろう。
14　ヒルコ牧場で稼いだ金を使ってカーライルから抜けようとしているが、そのことは既にカーライルの人間に気付かれている。「●イベント３：ブルーローズは起こり得ない」が発生する。

◆ブラッディローズの手口

〈社会：ストリート〉
15　標的は銃弾で心臓を撃ち抜かれて死んでいる。現場の状況から、一度の攻撃で複数人が射殺されたようだ。
17　戦闘した形跡はあるが赤いバラ以外にブラッディローズの痕跡は無い。ブラッディローズは一切の傷も負わなかったようだ。
20　【バッドエンドラフ】という殺し屋とバディを組んでいるらしい。

◆バッドエンドラフ

〈社会：ストリート〉〈社会：カーライル〉
12　白兵戦を得意とする殺し屋。嬲るように切り刻むサディスト。
14　やられたらやり返す性分であり、その執念は蛇の如くと称される。
16　ブラッディローズの手口を《不可触》で隠していたのは彼である。「●イベント４：スパティフィラムの死神」が発生する。

◆Ａ種実験場

〈社会：ストリート〉〈社会：テクノロジー〉
12　Ａ種実験場にいるセレーヌを助けるためには４つの難関を超えなければならない。これは１つの難関につき代表者１名のみが参加できる。
14　【一の門】【二の門】【三の門】【四の門】の情報項目の内容が公開される。
16　［Ａ種実験場のアドレス］を手に入れる。

◆一の門

Ａ種実験場の入り口は高度なセキュリティによって閉ざされている。〈電脳〉などでハッキングを試みる必要がある。
失敗した場合は神業相当の精神ダメージを受けて死ぬ。だが、ブラッディローズならば成功するだろう。

◆二の門

Ａ種実験場の内部は武装したドローン集団が巡回している。〈白兵〉などでドローンを撹乱しなければ突破は難しそうだ。
失敗した場合は神業相当の肉体ダメージを受けて死ぬ。だが、ブラッディローズならば成功するだろう。

◆三の門

追尾型の連帯保証人登録器が大量に設置されている。〈知覚〉などで正確に対処し続けなければ借金地獄を味わいそうだ。
失敗した場合は神業相当の社会ダメージを受けて死ぬ。だが、ブラッディローズならば成功するだろう。

◆四の門

ブラッディローズにしか解けないとされる恐るべき暗号文がある。これを解き明かし、間違えることなく入力しなければ死ぬだろう。
答えを間違えば場合は神業相当の肉体・精神・社会ダメージをそれぞれ一回ずつ受けて死ぬ。これは、真のブラッディローズでなければ解けないだろう。
この暗号を解く鍵は「タヌキ」(*3) である。

(*3)「タヌキ」
江戸時代に使われた古い暗号形式のひとつ、タヌキ・クリプティックが用いられている。このヒントは必ず伝えること。

クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

●ザ・マジックアワー・ショウ！

◆解説

生物工場の最奥、カルコ・ロッソを殺害した二人の人物を倒し、この生物工場を完全破壊しなければならない。

◆描写 1

セレーヌに導かれて着いた目的の場所。カルコ・ロッソの生物工場は異様な気配に包まれていた。

内部に入れば暴走したヒルコ達が闊歩しており、構成員と思しき人物の死体が通路の向こうまで続いている。

▼セリフ：セレーヌ

「様子がおかしい……。早く皆を落ち着かせないと！」
「この奥に工場のモニタールームがあるの。そこに行って私の歌をこの工場全体に放送できれば眠らせることならできるかもしれない！」
「モニタールームはこの奥よ！早く！」

◆描写 2

セレーヌのナビゲートで難なく最奥まで来たキミ達は尋常ならざる雰囲気を持つ二人の人物との邂逅を果たす。

一人は陽気な北米人。もう一人は赤いドレスに身を包んだ少女。

艶めかしく唇を舐めたその少女は立ち上がり、キミ達に声をかけた。

▼セリフ：メドラウト

「待っていたよ、ブラッディローズ。ボクの名前はメドラウト。キミのファンの一人さ」
「キミ達の目的はここの破壊と経営者の殺害……だっけ？片方はやっておいたから残りはどうぞ」

そこでキミ達は気づく。メドラウトと名乗った少女。その背後には人とも獣とも知れぬ生物の死体があることに。そしてそれが、カルコ・ロッソの亡骸であることも。

「もうクライマックスなんだ。エキストラには舞台から降りてもらったよ。残るはボク達とキミ達」
「さぁ！ラストダンスだ！ボク達を倒して見事この工場を破壊してみるがいい！」

◆描写 3

（メドラウトを倒した）トドメを刺されたメドラウト。しかしその身体からあふれ出たのは血液ではなく無機質なケーブルだった。

名称	セレーヌの歌を届けろ！	制限	なし
敗北条件	3カット経過	支援判定	〈白兵〉〈射撃〉〈心理〉

進行値	技能	目標値	進行修正	備考
初期	〈電脳〉〈制作：任意〉	10	1	
1	〈芸術：任意〉〈交渉〉	10	1	
3	〈芸術：任意〉	15	※解説参照	進行修正は「1＋判定者の〈芸術〉レベル」

進行値カウンター															
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30

内容：この工場をセレーヌの歌で満たすためにはまず、モニタールームの機材を使って工場内のスピーカーを有効にしなければならない。

最初の進行判定の「技能」は〈電脳〉〈制作：任意〉となる。

・イベント

初期：スピーカーの構造を理解し、セレーヌの歌がしっかり届くよう調整しなければならない。「技能」は〈電脳〉〈制作：任意〉、「目標値」は10、進行修正は1とする。加えて現段階でクリンナッププロセスを迎える度に20体の暴走ヒルコトループが2体、キャストから近距離の位置で登場する。

進行値1：セレーヌが歌う舞台は完成した。しかしこの戦闘の中、普段通りに歌えるよう勇気づける必要がある。進行判定の「技能」を〈芸術：任意〉〈交渉〉、「目標値」を10、進行修正を1に変更する。加えてクリンナップで登場する暴走ヒルコトループの数を2体から1体に変更する。

進行値3：彼女の歌は確実に効果を発揮している。だが、まだ足りない。あともうひと押しだ！進行判定の「技能」を〈芸術：任意〉、「目標値」を15、進行修正を1＋［判定者の芸術レベル］に変更する。加えてクリンナップで暴走ヒルコトループが登場しなくなる。

敗北：暴走ヒルコ達の完全な無力化は叶わず反撃を受ける。キャスト全員は山札から2枚引き、その合計に等しい肉体ダメージを受ける。

▼セリフ：メドラウト
「あはははは！楽しかったよブラッディローズ！次はこんな身体じゃなくて血の通ったボクと一緒に踊ろうか！それじゃあまたね！」
▼セリフ：バッドエンドラフ
「oh……本当にツイてないデース」
（北米語で）「だが、お前達の顔は覚えた。次会う時が命日と知れ」

◆カット進行

敵はメドラウト、バンドエンドラフの二人。キャスト達とは近距離の同エンゲージで登場する。

加えてこの戦闘は［ＦＳ判定：セレーヌの歌を届けろ！］と同時進行で行われる。

メドラウトとバンドエンドラフを戦闘不能、ＦＳ判定のクリアを以てこの戦闘は終了。エンディングフェイズへ。

■エンディングフェイズ

エンディングシーンの内容は特に想定していない。ここまで共に遊んだプレイヤー達の希望に沿う形でエンディングを行えば良いだろう。

メドラウト

マネキン◎、カブトワリ●、カブト

▼設定

「さぁ踊ろうかブラッディローズ。最後まで持ったなら名前ぐらいは覚えておいてあげるからさ！」

赤いドレスに身を包んだ少女。ブラッディローズの正体を知っているようだ。

▼神業

□プリーズ！　□とどめの一撃　□難攻不落

▼能力値／制御値

♠理性：５／11　♣感情：４／13
♥生命：７／13　♦外界：５／11

▼戦闘データ

【CS】８　【AR】１
【防御力】S：3／P：2／I：5

▼一般技能

3♠♧♥♦　知覚
4♠♣♥♦　芸術：舞踏
4♠♣♥♦　交渉
4♠♣♥♦　★射撃

▼スタイル技能

4♤♧♡◇　誘惑　(TNX195)
4♠♣♥♦　ガンフー　(TNX214)
3♠♧♥♦　ファニング　(TNX214)
3♤♣♥♦　フラッシュリロード　(CTL77)
1♤♧♡◇　†黒羽の矢　(TNX215)
3♠♧♥♦　†花吹雪　(TNX215)
1♠♧♡◇　※自動反撃　(TOS100)

▼アウトフィット

・MP21St……電：13／隠：11　(CTL94)
攻撃力 P+10(14)(二丁合計)。FA6。至近の対象にはカッコ内の攻撃力参照。

・メイルドフェアリー……電：18／隠：14　(TOS116)
防御力S：3／P：2／I：5

・閃鋼……電：16／隠：15　(TNX241)
セットアップ使用。【CS】+6。シーン持続。

▼戦闘プラン

セットアップで閃鋼使用。【CS】+6。
メジャーで〈射撃〉〈交渉〉〈ガンフー〉〈ファニング〉〈†花吹雪〉によるフルオート射撃攻撃。
達成値は +4。ダメージは P+16 の範囲選択攻撃。至近を対象にした場合は P+20 になる。
自身のメインプロセス終了後に〈フラッシュリロード〉。成立すれば弾倉交換。
リアクションでは〈射撃〉〈交渉〉〈※自動反撃〉。成功で即座に【AR】を消費せずにメインプロセス 1 回行動できる。

バッドエンドラフ

レッガー＝レッガー◎、カタナ●

▼設定

「HAHAHAHAHA ！かかってきなサーイ！」

陽気な北米人。アーサー・カーライルの伝言役に似ていると噂だが真相は不明。

▼神業

■不可触　□不可触　□死の舞踏

▼能力値／制御値

♠理性：６／11　♣感情：４／11
♥生命：７／12　♦外界：４／10

▼戦闘データ

【CS】８　【AR】１
【防御力】S：3／P：3／I：5

▼一般技能

2♠♧♥◇　知覚
2♠♧♥◇　運動
4♠♣♥♦　★白兵

▼スタイル技能

3♠♣♡◇　ハヤブサ　(TNX204)
2♠♧♥◇　無明剣　(TNX204)
3♤♧♡◇　イカサマ　(TNX212)
2♠♧♥◇　ダーティファイト　(TOS99)
2♤♧♡◇　剣圧　(CTL71)
1♤♧♡◇　復讐者　(CTL76)
2♠♧♥◇　†急所攻撃　(TNX213)
2♠♧♥◇　†度胸試し　(CTL76)

▼アウトフィット

・紫電……電：16／隠：30　(CTL93)
攻撃力 X+7。レーザー武器。

・閃星服……電：17／隠：12　(TNX238)
〈白兵〉の達成値 +2

・スリーアクション……電：15／隠：12　(TNX241)
・辰刃……電：15／隠：15　(TNX240)
・アサルトナーブス……電：16／隠：20　(TNX240)
・キラーフェイス……電：15／隠：12　(TNX254)

▼戦闘プラン

セットアップで〈ハヤブサ〉。カード分上昇。
ムーヴでエンゲージに侵入したら〈剣圧〉でエンゲージ封鎖
マイナーで〈スリーアクション〉〈辰刃〉〈アサルトナーブス〉〈キラーフェイス〉
メジャーで〈白兵〉〈無明剣〉〈ダーティファイト〉〈†急所攻撃〉
達成値 +4、X+13、知覚を組み合わせないとリアクション不可、レーザー武器
ダメージを与えられたら対象に【BS：衰弱】、スートは指定。
ダメージを与えられたら対象に【生命】の制御判定。失敗で【AR-1】
ダメージを受けたら〈†度胸試し〉で [ダメージ軽減] カード +3 点
ダメージを受けたら〈復讐者〉使用の《不可触》でダメージ反射 (*4)

■本作品について

本作品は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（シナリオデータ）です。
『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファーイースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。
本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。
また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

■利用規定

本作品は無料で自由にアクトに利用することが出来ます。
ただし、シナリオを使用した際には必ず、作者にシナリオやアクトの感想を送ってください。
シナリオ製作者にとって、なによりの励みは感想を貰えることです。
ホームページ（http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/）の各シナリオのダウンロードボックス内のツイートボタンを押し、感想ツイートを投稿してください。
（このため、本シナリオを使用するには twitter アカウントが必要になります）

また、シナリオの利用の際には以下の規約をお守りください。

① シナリオの著作権は各シナリオの作者にあります。
② シナリオの再配布、商用利用はご遠慮ください。
③ 投稿されているシナリオを利用したリプレイやプレイ動画の公開、あるいはコンベンションイベントでの使用など、特殊な使い方に関しては事前に作者に連絡を取り、可否を確認してください。

トーキョーN◎V A THE AXLERATION　投稿型シナリオ共有サイト

Neuro/CrowD

投稿シナリオ No.037 『The Magic Hour』

発行日：2017.8.5

執筆（著作権者）　nogi
イラスト　なし

企画　ニューロ／ＣＤ製作委員会
ＤＴＰ　まだら牛
素材　Z-design

連絡用メールアドレス：dapple_ox@gmail.com
サイトＵＲＬ：http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/